

I. 臨床検査技師とはどのような職業か？

1. 臨床検査技師の仕事内容の概要

臨床検査技師の仕事は大きく分けて「検体検査」と「生理機能検査」の2つに分かれます。

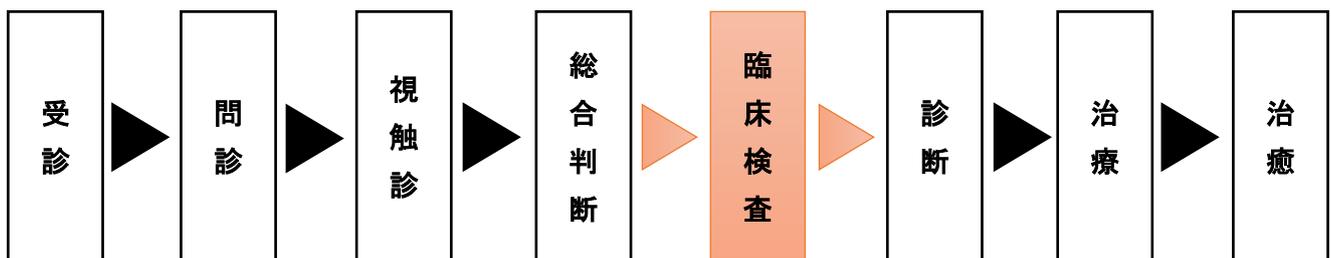
「検体検査」とは？

人体から採取した血液、尿、喀痰、組織、細胞、体腔液などの検体を用いて調べます。採血は看護師の仕事とされている人が多いと思いますが、病院や健康診断で行われる採血はほとんどが看護師と臨床検査技師で行っています。その他、学校健診に含まれる尿検査も、臨床検査技師の仕事になります。病院の他、検査センターと呼ばれる検体検査を集中して行う施設でも活躍します。

「生理機能検査」とは？

生理機能検査とは、超音波検査、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、聴力検査、MRI 検査など、患者さんの体から直接情報を記録して、その人の状態を調べる検査の事です。ほとんどが病院で行われる検査ですが、健康診断やクリニックでも実施されています。

診療の順を図示しました。病院では医師による問診や視触診により体がどうなっているのかを調べます。それらを総合判断し、診断するために必要な検査の指示が医師から臨床検査技師にあります。臨床検査技師は、上記にある検査を実施し、診断の手助けをしています。臨床検査の結果により診断がなされると、薬などの治療になり、治れば終了です。



2. 臨床検査技師の基礎データ

臨床検査技師の主な基本データ（男女計）は下表のとおりになっています。

労働者数	平均年齢	平均勤続年数	平均年収	所定内実労働時間数（/月）	超過実労働時間数（/月）
約 87 万人	39.8 歳	11.2 年	509 万円	164 時間	11 時間

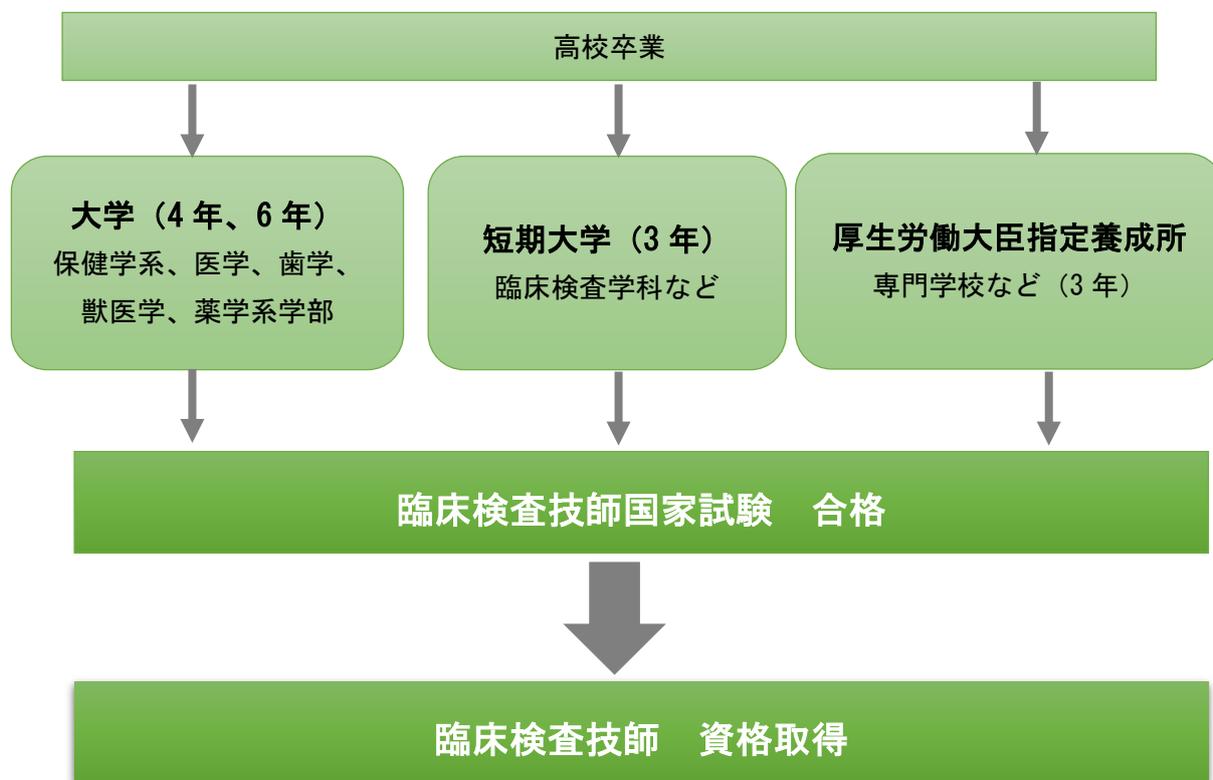
出典：厚生労働省「令和 4 年賃金構造基本統計調査に関する統計表」

現在、日本では約 87 万人の臨床検査技師が働いており、男性が約 30 万人、女性が約 57 万人と女性の方が多くなっています。また、平均年齢は 39.8 歳ですが、男女とも 25～29 歳の年齢帯が最も多くなっています。平均年収は男女計では約 509 万円であり、男性が約 561 万円、女性が約 482 万円と男性の方が高い現状です。これは臨床検査技師に限りませんが、女性は結婚や妊娠などのライフイベントが影響を与えていることが一因です。年収は勤続年数が増えたり、役職に就いたりすることで上がっていきます。月当たりの実労働時間数は 164 時間であり、他の医療職種とほぼ同等の時間数です。また、臨床検査技師は深夜勤務などの時間外労働があり、この労働時間を示す超過実労働時間数は月当たり約 11 時間となっています。

3. 臨床検査技師国家資格の取得について

臨床検査技師をめざす最も一般的な方法は、高校卒業後、大学や専門学校などの養成施設で臨床検査技師に必要な知識と技術を4年間（専門学校は3年間）学び、臨床検査技師国家試験を受験して合格する事です。

臨床検査技師国家資格取得の流れ



4. どのような人が臨床検査技師に向いているか

1) 様々な分野に興味を持ち、率先して学ぶことができる

臨床検査は患者さんの状態を把握し、治療方針を決めるための客観的な情報を得る上でとても重要です。その内容は非常に多岐にわたり、臨床検査技師が習得すべき知識や技術も膨大なものになります。医学領域では日々新たな知見が次々と生まれており、それに伴って臨床検査においてもより専門的で高度な検査が登場してきています。複雑化する臨床検査に対応できるようになるためにも、日頃から様々な分野における最新の情報や知見を自ら率先して調べ、学習する姿勢を持つことが臨床検査技師として必須のスキルです。



2) 慎重かつ正確な操作や判断ができる

患者さんの現在の状況を知り、今後の治療を進める上で臨床検査はとても重要なため、ミスが許されません。そのため、検査は十分慎重に行い、検査データを正確に判断できる能力が必要です。また、万が一ミスが生じてしまった場合でも、それに的確に対処できるような臨機応変さを持つことも重要なスキルとなります。

3) 社交性・協調性がある

臨床検査では患者さんから提供された検体を検査室で検査することが多くなりますが、一連の検査業務の過程では多くの臨床検査技師あるいは他の医療従事者と協調して作業をする必要があります。また、採血や生体検査では患者さんに対して直接検査を行うため、相手を不快にさせないためにも接遇・コミュニケーション能力が必須となります。近年は「チーム医療」という、医師や看護師などの他医療職種と連携した医療行為が非常に重要な役割を果たしており、互いに意思疎通を取りながら進めていく必要があります。したがって、臨床検査技師として働いていくためには、挨拶・御礼・謝罪などの基本的なコミュニケーションスキルが自然と行えることや、他人に丁寧に分かりやすく物事を説明できるようなスキルが求められます。



5. 臨床検査技師の将来性

臨床検査技師は特に以下の2点において、今後大きな役割を担っていくと考えられています。

1) タスクシフト/シェアによる臨床検査技師の業務拡大

近年、長時間労働が常態化している医師の働き方を是正する目的で「タスクシフト/シェアの推進」が進められています。これは医師が行っている業務を他の医療職種でも行えるよう見直す動きで、令和3年の法改正により臨床検査技師が行うことができる業務が拡大されます。一例として、患者さんからの検体採取や心電図検査に代表される生理機能検査において、新たに臨床検査技師が行うことができる業務が追加されます。高度で複雑な臨床検査業務に加え、より幅広い検査・診療補助業務に臨床検査技師が関わることになり、医療現場で臨床検査技師が活躍する場がさらに広がっていくことが期待されます。

<タスクシフトとは>



医師

医師の一部業務を
他の職種に任せる



臨床検査技師など
他の医療職種

<タスクシェアとは>



医師

医師の業務を
一部分担する



臨床検査技師

2) 健康増進意識の広がりに伴う臨床検査のニーズ拡大

これまでは0歳における平均余命である「平均寿命」が注目されてきましたが、現在は生活の質(QOL)を保ち、健康な状態で生活することが期待される平均期間である「健康寿命」を延ばそうという考え方が広がっています。そのためには病気の原因を早期に発見し、疾患を未然に防ぐことで健康を維持していくことが重要であり、この中で臨床検査が果たす役割は非常に大きくなっています。学校や職場、健診センターなどで行われている健康診断や人間ドックでの検査には多くの臨床検査技師が携わっています。今後高齢化がさらに加速していく中で、人々の健康増進意識の広がりとともに、病気の早期発見・予防における臨床検査技師の重要性が益々増していくことが期待されます。

Ⅱ. 臨床検査技師の1日

1. 大学病院
2. 市立病院
3. クリニック
4. 健診センター
5. 検査機器メーカー（学術職）
6. 治験コーディネーター（CRC）
7. 大学教員

→別ファイルをご参照ください。